

問 民泊の実態把握は

答 合同で調査・指導を



太田修議員

【観光事業への課題と改善策及び今後の計画等について】

問 民泊等の実態把握と今後の対策は。

村長 国は民泊の活用に向けたルールづくりを進めています。全国知事会で阿部知事は「地域の実情に即した民泊サービスの制度の構築」を提案しました。宿泊や商工関係者からは「住宅名義で建設し宿泊業を行う者」、「規制緩和でなくルールを守る事が大事」、「安く泊まりたいニーズは分かるがルールを遵守すべき」などの多くの意見がありました。村では村内の民泊施設の実態把握が最優先と考え、北安曇地方事務所及び大町保健福祉事務所と合同で、調査・指導を行います。

問 プレ・信州デイストネーションキャンペーンの反省と計画は。

副村長 内容や改善点、アピール方法等について提言を頂き、反省会を行い来年度の本番に向け、工夫を凝らし多くのお客さまを出迎えます。

【第5次総合計画への行財政施策と策定期期について】

問 策定期期とグラウンドデザインは。

村長 パブリックコメントを終わる9月中旬の製本化を目指し進めています。また、グラウンドデザインは、白馬に集う皆さんが「白馬の豊かさとは何か」を問いつづけることで、厳しい社会変化にもお互いに知恵を出し合い、手を携えながら乗り越え、一人ひとりが「豊かさ」を感じ成長することが出来る白馬村を目指します。総合計画の基本計画は、この理念のもと住民、役員職員、計画審議会、村外の白馬ファンから意見やアイデアを聞き、まとめる作業を行いました。

問 主産業である農業と観光施策は。

農政課長 農業振興策は、耕作放棄地をなくし景観を守り観光振興に努めるとともに、生産性、作業効率の向上や、ほ場整備事業に取り組みます。また、おいしい米や野菜のブランド化等の推進に努めます。

観光課長 通年観光を目指し、グリーンシーズンの底上げや夏以外の標準化に向けてサイクリストの受入れを検討しています。また北アルプス自転車協議会からの陳情もありました。

問 「チーム白馬」で庁内を横断できる組織に。

村長 最高決定機関である課長会議において議論や協議を行い、また次の時代を担う各階層の職員からも意見交換の場を設け、活性化に努めます。

問 ハード事業の優先順位や規模や内容、財政計画は。

村長 小中学校の建物耐震化事業はすべて完了します。スポーツ施設の整備及び充実に関する事業は、平成30年度に事



先進観光地の視点で見る「民泊」のメリット・デメリット検討会議
(8月18日、於：白馬商工会)

問 道の駅複合施設の検討内容は。

村長 村民と観光者をつなぐ重要な施設と考え、防災、雨降対策、地域コミュニティー、また農産物販売所や図書館の併設等について、庁内検討委員会で検討中です。

業費約8600万円で南部グラウンドの改修を予定しています。また、道の駅と地域経済循環システムの構築や、図書館施設整備事業は、両施設の状態を踏まえ新たに総合計画に盛り込みました。道の駅複合施設建設方針検討庁内委員会を立ち上げ、検討中で、実施時期や事業規模等は未定です。